

# 水稻病害判定シート

- ほ場で主要病害を見分ける -

## 葉に症状が出る病害

### 葉いもち

6月上旬頃より発生する。曇雨天が多いと多発し、多肥は発生を助長する。急性型病斑は伝染力が強い。多発するとイネが萎縮し、ずりこみ症状を示す。いもち病は、葉、節、穂首、枝梗、もみなど、根以外のすべての部位で発病する。

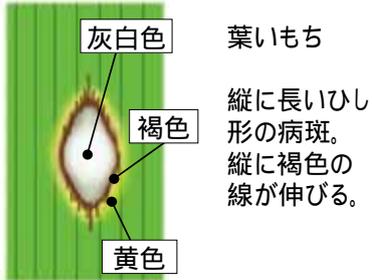


### 紋枯病

6月中旬頃より発生し、高温年に多い。前年多発したほ場では発生しやすい。病斑は周辺部が褐色、内部が淡褐色の円形で、最初下部の葉鞘にでき、上位に進展する。ひどいときは葉や穂も枯らす。

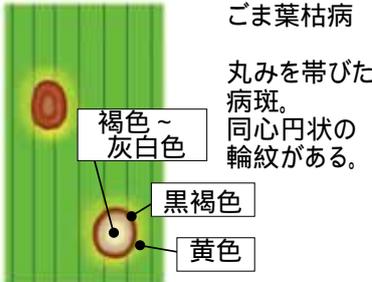


### 葉に出る障害の見分け方



#### 葉いもち

縦に長いひし形の病斑。縦に褐色の線が伸びる。

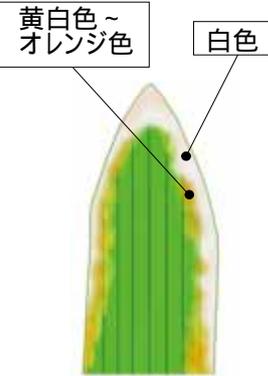


#### ごま葉枯病

丸みを帯びた病斑。同心円状の輪紋がある。

#### 白葉枯病

葉の先端付近から両縁に波形の病斑が現れる。



#### 赤枯症 (生理障害)

下葉の先から赤褐色の細かい斑点ができる。病原菌によるものではなく、伝染しない。



#### 除草剤の害 (畦畔除草剤が葉にかかった例)

健全部と異常部の境目がはっきりしている。薬剤により症状は異なるので、周囲の状況をよく見て診断する。

#### 黄化萎縮病

本田初期に発生し、浸冠水すると発生が多い。黄化・萎縮して枯死する。葉に白いかすり状の斑点ができる。



#### ごま葉枯病

肥切れと関連が深く、収穫期前の発生が多い。主に葉に病斑をつくるが、穂首やもみにも感染し、ひどい場合は穂枯れを起こす。



#### 白葉枯病

強い風雨の後に発生しやすい。ひどい場合には葉全体が白変枯死し、遠目にもほ場が変色して見える。



#### ばか苗病

汚染種子により育苗期から発生する。徒長して色が淡くなり、その後枯死する。枯死株からは孢子が飛び散り、周囲のもみを汚染する。

#### 黄萎病

7月頃より発生する。病原菌はツマグロコバイによって媒介される。黄化・萎縮し、高位分げつや穂の出すくみ、不稔を起こす。



# 穂に症状が出る病害



**穂いもち**  
出穂期前後の低温多雨や、止め葉での葉いもちの発生、多肥により多発しやすい。

**稲こうじ病**  
出穂前に雨が多いと発生が多くなる。もみに黒いダンゴのようなかたまりができる。



# 穂が枯れる障害の見分け方



**穂いもち**  
穂首の節や枝梗などに黒褐色の病斑ができ、そこより上部が枯死する。

**ニカメイガ他の虫害**  
手で穂を引き抜くと簡単に抜ける。抜けた穂の根元には虫がかじった跡がある。

**もみ枯細菌病**  
軸は褐変しないが、もみだけが褐変する。もみの基部は黒変する。

**ごま葉枯病**  
穂はアメ色に褐変する。葉に病斑がある。

**紋枯病**  
止め葉も枯れ上がり、葉鞘に病斑がある。

# 育苗期の病害

**苗いもち**  
主に汚染種子から発生し、高温多湿管理で多発する。葉いもちと同じく、ひし形の病斑がたくさんできる。



← 発病苗

**ばか苗病**  
汚染種子から発生する。発病苗は徒長して色が淡くなり、本田に移植すると枯死する。



玄米

**もみ枯細菌病**  
出穂期が高温だと発生が多い。穂が直立したり、玄米が带状に褐変することがある。

**苗立枯病**  
数種の病原菌があり、汚染された用土や資材が発生源となる。



フザリウム菌



トリコデルマ菌

白色または赤色のカビが発生し、褐変枯死する。低温管理や酸度が低い育苗土で多発する。

最初白く、後に緑色となるカビが発生し、黄化、枯死する。保水力が小さく酸度が高い育苗土で多発する。

**ピシウム菌**  
地際部にカビは見られず、しおれて腐敗枯死する。低温多湿管理で多発する。

**リゾープス菌**  
出芽時に全面が白いカビに覆われ、出芽や生育の不良、枯死をまねく。高温多湿管理で多発する。



**もみ枯細菌病**  
汚染種子から発生し、高温管理で多発する。葉の基部は白化し、苗の基部は褐変腐敗して枯死する。芯葉は簡単に抜ける。



**褐条病**  
汚染種子から発生し、高温管理や循環式催芽機の利用により多発する。葉鞘には褐色すじ状の病斑ができ、苗はわん曲する。腐敗の末、枯死する。



**苗立枯細菌病**  
汚染種子から発生し、高温管理で多発する。もみ枯細菌病と似ているが腐らず、乾燥枯死する。芯葉は簡単には引き抜けない。